

第19回(2022年)のコンクール入賞作品です。

小学6年生の作品

家族de新聞スクラップ専用シート

【北日本新聞 2022年 1月 26日付 連載】 (切り抜いた記事を貼りつけてください)

レボリューション hair

Hair Donations on the Rise

アドネーションマーク
髪の毛アドネーションをして下さい

**がんとたたかう
子どもたちに**

アドネーションをしたことがありますか?

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
50%	40.7%	33.3%	25.0%	16.7%	10.0%	5.0%	0.0%

自分でしたことがある
やめたいと思う
どちらもしない
やってみたいとは思わない

**年々早まる
ランドセル選り**

**進む多色化
好みも分散**

8割超

SDGsの影響を受けているのではないか。

タイトル見出し **アドネーションで患者さんに勇気を!**

最近、アドネーションという言葉をよく耳にし、友達にもアドネーションをした人がいる。テレビで、男の子が髪を寄付しているのを見た、その子は床の中で頭に髪をついたい、といい、伸び事を決意したそうだ。男の子が髪が長いことからかわかれても可く、伸びし髪の上には強い意志と勇気がいること、アドネーションは年齢や性別は関係ないと伝える。アドネーションマーク、というものが違う、これを見た時のマスクの男の子のような人の為にあるが、た青色はアドネーションをしてほしい、オレンジ色はアドネーションを応援しています、という意味だそうだ。私の母も以前、髪に髪を摘んだことがある。冬はとても寒くて、帽子をかぶって生活していたが、ワグをかぶると前の母に戻ったみたいで嬉しかった。髪が生えてから、今は必要なくなってしまった。大切にしている。

ワグは柔軟たりかうしたりと様々なヘアスタイルが楽しめるようだ。病気や薬の影響で髪が抜けたのは寂しいことと思う。ワグの大きさを少しでも和らげ、患者さんが日常生活を送るのに大切なものだと考える。寄付された髪で作られたワグは、18歳以下の子供達に無償で提供される。私もそんなお供達のために、何かできることを探してみたと、この記事を読んで思った。

家族や友だちひと言 (切り抜いた記事と感想を読んでもらいたいことを書いてもらってください)

髪を長く保ててワグを作るために寄付くだらー、ということは以前から思っていたので、それがアドネーションというと、うて寄付したと、うん、身边に現れ、耳に耳にうにならなければ、最後の事だ。それだけ、需要が増えてきたのだから。というより数年前、髪の髪が抜け、ウイグル民族がいたな。警察署もいたりしたが、強引な、外で勝手に髪を抜き、日本にならうにいたり。しかし、ウイグルをするようにしてから、髪は前髪から、外は半ば剃った。大人が、おじいちゃんがおじいちゃんなり。男性が懇意に髪を抜いていたのはとても悪い現象である。でも、どうもおじいちゃんなり。男性が懇意に髪を抜いていたのはとても悪い現象である。

中学2年生の作品

家族de新聞スクラップ専用シート

【北日本新聞 2022年 6月 14日付 19面】 (切り抜いた記事を貼りつけてください)

**年々早まる
ランドセル選り**

**進む多色化
好みも分散**

8割超

SDGsの影響を受けているのではないか。

タイトル見出し **ランドセルの多色化とSDGs**

外を歩いていると、小学生のランドセルの色が以前よりカラフルになっていることに気がついた。ランドセル売り場を見ても、私の入学当時にはなかった色がたくさんあった。

現在は「SDGs」という目標に世界全体が一丸となって取り組んでいる。そのなかには「ジェンダー平等を実現しよう」というのがあるが、このランドセルの色の変化もこの問題に関わっているのではないか。赤やオレンジ色のランドセルにはたいていかわいらしさが刺繡がされている。そのかわいらしさにあこがれる人も確かに多いが、これでは男の子が手に取りにくくなってしまうかもしれない。

私たちが今できるのは固定観念に囚われすぎないことだと思う。ランドセルの色の話だけにかかわらず、男子も女子もみんなが活き活きとした生活が送られるような社会にならないことをから願っている。

家族や友だちひと言 (切り抜いた記事と感想を読んでもらいたいことを書いてもらってください)

誰も決めたわけもないのに「そうしないといけない為什麼?」とか「こうでなくては?」と思ふことはよくあります。そのなかには、「なぜ?」と答えたときに説明できないことは多いです。このランドセルの色については、そういうことがあわれている例かもしれません。

そういった固定観念にとらわれずに、全ての人達が、それぞれの個性を尊重して自分の考えを堂々と主張できる世の中になっていくといいですね。

第20回

わたしの新聞

新聞コンクール

家族de新聞
スクラップせんよう
専用シート

応募の手順

- ① 新聞を読む。
- ② 取り上げる記事を決める。
- ③ 記事を切り抜いて専用シートに貼る。
ぬ
せんよう
は
- ④ 見出し・タイトルをつける。
- ⑤ 読んで思ったことや考えたことを書く。
- ⑥ 家族や友だちに見せて、コメントを書いてもらう。
ていしゅつ
- ⑦ もう一度読んでできあがり。提出してください。

応募票

ふりがな	男・女	ふりがな
名前		保護者名
住所		
電話		学校 年

*作品は未発表のものに限ります。作品の著作権は北日本新聞社に帰属し返却しません。作品及び記入された個人情報は、北日本新聞社と販売店で適切に管理し、北日本新聞の各種ご案内に使用します。*優秀な作品は、北日本新聞の特集紙面等で紹介します。*作品公表の際には、表現を変更させていただくことがあります。

家族de新聞スクラップ専用シート

【新聞年月日付面】

〈切り抜いた記事を貼りつけてください〉



大きいときは、折り曲げてください。
記事は右かどをあわせて貼ってください。

使い方は自由! 楽しくて面白いシートを完成させてください。

学校名 | 学年 | 名前（ふりがな）
| 年 |

〈タイトル・見出し〉

気づいたことや思ったことを書いてください

〈家族や友だちひと言〉(切り抜いた記事と感想を読んでもらい、思ったことを書いてもらってください)

ひと言を書いた人：父・母・祖父・祖母・兄・姉・友人 その他() ※○で囲んでください